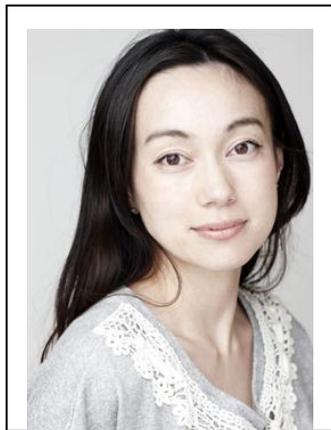


第 4 回 三鷹コミュニティシネマ映画祭

緊急のお知らせ

11 月 23 日(土)



女優

佐伯日菜子さん

ゲスト登壇決定!!

平素より大変お世話になっております。

この度、11 月 22 日（金）～24 日（日）におきまして「第 4 回三鷹コミュニティシネマ映画祭」が開催されますが、11 月 23 日(土)の三鷹の映画人「金子修介監督特集」での金子修介監督のトークショーに女優・佐伯日菜子さんがスペシャルゲストで参加することが決定いたしました。

今回の映画祭では、金子修介監督の『毎日が夏休み』が 35mm プリントで上映されますが、この作品で映画デビューした佐伯日菜子さんにとっても久しぶりにスクリーンで観る機会となりました。

当日は、佐伯さんの他に、トークショーの聞き手として金子監督の実弟で脚本家の金子二郎氏も登壇いたします。本情報を、ぜひ貴媒体にてご紹介下さいますようお願い致します。



『毎日が夏休み』

東京郊外の新興住宅地に住む林海寺家は 3 人家族。再婚同士の義父・成雪（佐野史郎）母・良子（高橋ひとみ）を持つ中学 2 年の娘・スギナ（佐伯日菜子）は、名門女子中学生と近所でも評判だったが、実はいじめにあっていて登校拒否していた。義父・成雪も一流エリートサラリーマンであったが、出社拒否となり、大騒動となる。そんな中、成雪はスギナの教育に目覚め、家でいつも一緒にいるために自宅で「何でも屋・林海寺社」という会社を開業するのだが・・・

[解説] 大島弓子の同名コミックが原作。登校拒否の娘（佐伯日菜子）と会社を辞めた義父（佐野史郎）、その間でお

ろおろする母。一家 3 人の葛藤と自由な生活を爽やかに描くファンタジック・ホーム・コメディ。本作が映画デビューとなった佐伯日菜子がヒロインのスギナをみずみずしく演じた。

94 年度キネマ旬報日本映画ベストテン第 10 位、同読者選出日本映画ベストテン第 7 位。

監督：金子修介 原作：大島弓子 脚本：金子修介 配給：ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

出演：佐野史郎、佐伯日菜子、風吹ジュン、高橋ひとみ [1994 年 カラー ビスタ 94 分]

11 月 23 日(土) 三鷹の映画人「金子修介監督特集」

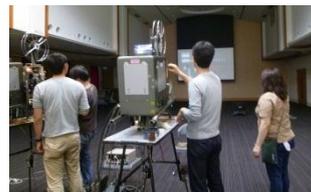
- ・ガメラ 大怪獣空中決戦（1995 年 ブルーリボン賞受賞）上映開始 13：00
- ・毎日が夏休み（1994 年 大島弓子原作・佐伯日菜子のデビュー作）上映開始 15：00
- ◇入場料金（二本立て）前売券 1,200 円 当日券 1,500 円
- トークショーは『毎日が夏休み』上映終了後を予定しています。

「第4回三鷹コミュニティシネマ映画祭」開催！

—35mm フィルム上映会 みたか DE CINEMA— **3日間だけの映画館**

じぇじぇじぇ（'jjj'）！ なんと35mm映写機を買っちゃいました！
だから映画のフィルム上映も自分たちでやっちゃいます！

「三鷹に映画館を！」の思いで市民有志が企画・運営に参加する手作り映画祭！
映画の楽しさ、素晴らしさを多くの方に知っていただきたいと、心を込めて贈る8作品。
スタッフ一同、お・も・て・な・しの心はどんな映画祭にも負けません！



「映画を通じてまちを元気にしたい！」という思いで、三鷹市の第三セクター 株式会社まちづくり三鷹と市民有志が協働で開催するアットホームな映画祭です。

日程：平成25年11月22日(金)・23日(土)・24日(日)

会場：三鷹産業プラザ7階（三鷹市下連雀3-38-4）JR三鷹駅南口徒歩7分



華岡青洲の妻



ガメラ 大怪獣空中決戦
©角川映画 日本テレビ 博報堂 / 1995



毎日が夏休み



勝手にしやがれ ©フランス映画社

11月22日(金) 文化庁優秀映画鑑賞推進事業「映画史に残る名コンビ、邦画の巨匠と女優」

- ・浪華悲歌（1936年 溝口健二監督×山田五十鈴） 上映開始 9:30
- ・稲妻（1952年 成瀬巳喜男監督×高峰秀子） 上映開始 11:00
- ・愛の讃歌（1967年 山田洋次監督×倍賞千恵子） 上映開始 13:30
- ・華岡青洲の妻（1967年 増村保造監督×若尾文子） 上映開始 15:20

◇入場料金 前売券・当日券とも1作品 500円 / 2作品以上何本観ても 1,000円

◆12:45～ プチトークショー
日本映画通の「名画座かんぺ」発行人
のむちさん×コメディアン 寒空はだかさん

11月23日(土) 三鷹の映画人「金子修介監督特集」

- ・ガメラ 大怪獣空中決戦（1995年 ブルーリボン賞受賞） 上映開始 13:00
 - ・毎日が夏休み（1994年 大島弓子原作・佐伯日菜子のデビュー作） 上映開始 15:00
- ◇入場料金（二本立て）前売券 1,200円 当日券 1,500円

◆金子修介監督トークショー
スペシャルゲスト
佐伯日菜子さん登壇決定！

11月24日(日) 三鷹オスカー 一日だけ、復活!! 第5弾「映画史に残る名コンビ、洋画の巨匠と男優」

- ・サクリファイス（1986年 スェーデン＝仏 アンドレイ・タルコフスキー監督×エルランド・ヨセフソン） 上映開始 13:00
 - ・勝手にしやがれ（1960年 仏 ジャン＝リュック・ゴダール監督×ジャン＝ポール・ベルモンド） 上映開始 15:50
- ◇入場料金（二本立て）前売券 1,200円 当日券 1,500円

◆1990年に閉館した名画座「三鷹オスカー」
の番組編成 鶴田浩司さんが選んだ作品

前売券は全国のローソン、株式会社まちづくり三鷹、みたか観光案内所で販売中

主催：株式会社まちづくり三鷹 / 三鷹コミュニティシネマ映画祭実行委員会 / 文化庁 / 東京国立近代美術館フィルムセンター
後援：三鷹市 / 三鷹商工会 協賛：株式会社文伸 / 株式会社衛星劇場 協力：NPO法人みたか都市観光協会 / 株式会社オーエムシー

このプレスリリースに関するお問合せは下記までお願いします

株式会社まちづくり三鷹 担当：施設整備グループ 羽石

東京都三鷹市下連雀3-38-4 三鷹産業プラザ

電話 0422-40-9669(9:00～17:30) / 0422-49-8182(17:30～19:00) FAX 0422-40-9750

Eメール info@mitaka.ne.jp URL: http://cinema.mall.mitaka.ne.jp

作品案内

**小中高と三鷹で過ごした巨匠・金子修介監督を招いて幻の傑作『毎日が夏休み』を35ミリプリント上映！
名匠＋女優の名作邦画からゴダール、タルコフスキーまで多彩なラインナップでお贈りします！**

11月22日（金）開場時間 9：10

平成25年度文化庁優秀映画鑑賞推進事業“映画史に残る名コンビ、邦画の巨匠と女優編”

溝口健二監督と山田五十鈴、成瀬巳喜男監督と高峰秀子、増村保造監督と若尾文子、山田洋次監督と倍賞千恵子。監督と女優との宿命的な出会いによって生み出された名作を紹介します。

浪華悲歌 上映開始 9：30

〔解説〕大阪の製菓会社で電話交換手として働くモダンガールのアヤ子（山田五十鈴）が、家族の経済的苦境を救うため、恋人がいるにもかかわらず、言い寄ってきた社長の囲われものとなるが…。男達の欲望と卑劣さと弱さの餌食になって転落していくアヤ子の姿を徹底的に冷ややかな視線で捉えた溝口健二の演出が見どころ。「キネマ旬報」ベストテン3位。

原作・監督：溝口健二／出演：山田五十鈴、梅村蓉子、大久保清子、志賀廻家弁慶、志村喬

[1936年 第一映画 モノクロ スタANDARD 72分]

稲妻 上映開始 11：00

〔解説〕それぞれ父親の違う四人の子どもたち。母はそれをそのまま受け入れて暮らしているが、末っ子の清子（高峰秀子）は姉や兄たちの身勝手な無気力な生き方に生理的に嫌悪を抱いている。次女の光子が飼っている子猫のように、弱々しい生きものとして周りの世話になりたくないのだ。この作品は下町の庶民の姿をいたずらに劇化することなく、静かに見つめているところに特徴がある。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

監督：成瀬巳喜男 原作：林芙美子 脚本：田中澄江／出演：高峰秀子、三浦光子、香川京子、村田知英子、根上淳

[1952年 大映（東京）モノクロ スタANDARD 87分]

愛の讃歌 上映開始 13：10

〔解説〕フランスの劇作家、マルセル・パニョールの「ファニー」を翻案した作品。舞台はマルセイユから瀬戸内海の小さな島に置き換えられ、その豊かな自然を背景に、若い男女の恋の行方が綴られている。平凡な恋、平凡な人の営みのなかにこそ、本当の喜びや悲しみがある。そこには、この翌々年から「寅さん」シリーズを生み出していく山田洋次監督らしい姿勢が一貫していると見えよう。

脚本・監督：山田洋次 原作：M・パニョール 製作：脇田茂

出演：倍賞千恵子、中山仁、伴淳三郎、有島一郎、千秋実、渡辺篤、小沢昭一

[1967年 松竹 カラー シネマスコープ 94分]

華岡青洲の妻 上映開始 15：00

〔解説〕有吉佐和子の同名原作を、新藤兼人の脚本を得て増村保造が映画化した作品。日本発の麻酔薬の開発者として名高い、紀州の医師華岡青洲をめぐる母と妻の葛藤を中心に描いている。増村保造はこの映画化に熱心で、企画会議で永田雅一社長に訴えて製作許可を得た。増村自身は、女の戦いを利用してつつ薬を完成させた華岡青洲に魅力を感じていたらしい。「キネマ旬報」ベストテン第5位。

監督：増村保造 原作：有吉佐和子 脚色：新藤兼人

出演：市川雷蔵、若尾文子、高峰秀子、渡辺美佐子、浪花千栄子

[1967年 大映（京都）モノクロ シネマスコープ 99分]

11月23日（土）開場時間 12:40

【三鷹の映画人 Vol. 2】「金子修介監督特集」

「三鷹」に縁がある映画人にスポットを当てる「三鷹の映画人」。第二弾は、中・高を三鷹で過ごした監督で、「平成ガメラ」シリーズ、『DEATH NOTE デスノート』シリーズで日本の娯楽映画の歴史を変えた金子修介監督特集。しかも、権利元の事情でDVD絶版、上映もままならなかった幻の傑作『毎日が夏休み』を貴重なフィルム上映！ これは見逃せない！

ガメラ大怪獣空中決戦 上映開始 13:00

【解説】太平洋上に謎の巨大漂流環礁が出現し一等航海士・米森（伊原剛志）が調査に乗り出した。一方、九州のある島を訪れた鳥類学者・長峰（中山忍）は怪鳥と遭遇。やがて、米森の調査で環礁そのものが生物であることが明らかになりその名はガメラ、怪鳥はギャオスと判明する。両者は太古の昔からの宿敵だった。今、現代の東京を舞台にガメラとギャオスの一大決戦が始まる！

監督：金子修介 脚本：伊藤和典 特技監督：樋口真嗣 総指揮：徳間康快 製作代表：加藤博之、漆戸靖治、大野茂 プロデューサー：土川勉 ラインプロデューサー：南里幸 配給：角川映画 日本テレビ 博報堂

出演：伊原剛志、小野寺昭、藤谷文子、中山忍 [1995年 カラー ビスタ 95分 日本]

毎日が夏休み 上映開始 15:00

【解説】大島弓子の同名コミックが原作。登校拒否の娘（佐伯日菜子）と会社を辞めた義父（佐野史郎）、その間でおろおろする母。一家3人の葛藤と自由な生活を爽やかに描くファンタジック・ホーム・コメディ。本作が映画デビューとなった佐伯日菜子がヒロインのスギナをみずみずしく演じた。94年度キネマ旬報日本映画ベストテン第10位、同読者選出日本映画ベストテン第7位。

監督：金子修介 原作：大島弓子 脚本：金子修介 提供：ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

出演：佐野史郎、佐伯日菜子、風吹ジュン、高橋ひとみ [1994年 カラー ビスタ 94分]

11月24日（日）開場時間 12:40

【三鷹オスカー、一日だけ復活!! 第4弾】「映画史に残る名コンビ、洋画の巨匠と男優編」

三鷹オスカーとは、三鷹駅前南口にあった名画座。番組編成の鶴田浩司氏による絶妙なプログラムが人気で、普通いつめた映画人も数知れず。今回、鶴田浩司さんが選んだのは、巨匠と男優の名コンビ。三鷹オスカーらしい組合せです。

サクリファイス 上映開始 13:00

【解説】1986年のカンヌ国際映画祭でグランプリ他4賞に輝いたアンドレイ・タルコフスキーの遺作。タルコフスキー監督作品は、どれも国際的に高い評価を受けているが、寡作な上に54歳で早世した為、生涯でわずか8本の作品しか残していない。その中で『ノスタルジア』に続き本作品と2本も出演したのが名優エルランド・ヨセフソン。

監督・脚本：アンドレイ・タルコフスキー 撮影：スヴェン・ニクヴィスト 配給：フランス映画社

出演：エルランド・ヨセフソン、スーザン・フリートウッド、アラン・エドヴァル、グドルン・ギスラドットティル

[1986年 カラー ヨーロッパピスタ 149分 スウェーデン＝フランス合作]

勝手にしやがれ 上映開始 15:00

【解説】それまでの映画文法や常識を打ち破り、全く新しいスタイルの映画を確立したヌーヴェル・ヴァーグの傑作。主演のジャン＝ポール・ベルモンドは、ヌーヴェル・ヴァーグの作品に数多く出演しているが、ジャン＝リュック・ゴダールとは、本作品以後も『シャルロットとジュール』、『女は女である』、『気狂いピエロ』の3本で組んでいる。

原案：フランソワ・トリュフォー 監督・脚本・台詞：ジャン＝リュック・ゴダール 監修：クロード・シャブロール 配給：フランス映画社 出演：ジャン＝ポール・ベルモンド、ジーン・セバーグ、ダニエル・ブーランジェ、アンリ＝ジャック・ユエ

[1960年 モノクロ スタンダード 89分 仏]